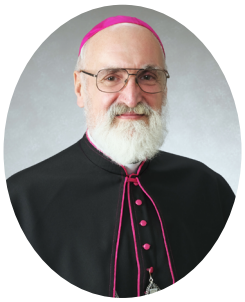
南の光明
The Catholic Diocese of Naha Newsletter

今年の教区の目標
平和は聖なるもの 神のみ旨
絶えざる和解の旅

〒902-0067　那覇市安里3-7-2
カトリック那覇教区本部
TEL.098-863-2020 FAX.098-863-8474
発行人　W.F.バーント司教　1部40円
http://www.naha.catholic.jp/

（1）2026年11月1日（毎月1日発行）　カトリック那覇教区報 MINAMI NO KŌMYŌ　　第816号（11月号）

# 「南の光明」から「みなみのひかり」へ



カトリック那覇教区
ウェイン・F・バーント司教

教区報の刷新を図る目的でまずタイトルを変えようと試みましたが、そういう中で那覇教区報の創刊号を目にする機会を得ました。編集にかかわった方たちの思いや当時の教区長レイ司教様の宣教にかける心を反映してできた創刊号を読み進めると、教区報の名前はやはり当初のまま「南の光明」でいきたいという思いが沸いてきました。ただし、当初の呼び名「みなみのひかり」と誰でも読めるように、ひらがなで書き表したいと思います。新しい教区報名の案をお寄せいただいた皆様のご協力に心から感謝申し上げます。以下に創刊号の内容を皆様に紹介し、当時を振り返ってみたいと思います。

那覇教区報「南の光明」は1953年6月に創刊されました。今から約73年前のことになります。「南の光明」創刊当時の琉球カトリック教区長フェリックス・レイ司教は「創刊の辞」で『戦後布教を始めて以来、那覇教区内におけるカトリックの布教状態を知るすべはなかったので、このような広報誌の必要性を感じてきた。「南の光明」発行の目的は、信徒たちがカトリックの教えと歩調をそろえていけるようにするためである。信徒のニュースはどんなものでも他の信徒たちにとって興味のあるものであり、ニュースを提供する信徒の皆様の協力を仰ぎたいし、教区報がよりよく変わっていくために信徒からの示唆がほしい。「南の光明」が教区のニュースの泉であるばかりでなく、相互扶助の泉となることを希望し、沖縄に住むすべての信者たちに友和の絆をもたらすように願う』と述べました。

記事の中で特筆したいのは、伊集朝規さんの記事です。1949年2月レイ司教様と出会い、安里のご自宅で1949年4月から10月まで同居し、アメリカ人にとっては貧弱であったかもしれない戦後沖縄の食を共にしたこと、レイ司教様によって自宅で捧げられた、戦後の沖縄で初となるミサに与り、光に満ち溢れた思いを抱いたことを述べました。その後開南の地で教会建設が行われ、1949年12月4日に最初の本格的なミサが開南教会で行われたことや、首里、与那原、泡瀬、八重山と教会建設が進んでいることなどが書かれ、レイ司教様が伊集さんに静かに語った抱負が着々と実現しつつあると結んでいます。

石垣教会（当時は八重山教会）の有馬伝道士は「300年前の殉教の種今や花開かんとす」と題して、約300年前八重山で洗礼を受け殉教した石垣永将の信仰が花開いたものであると、石垣教会建設をその殉教と結びつけて感動を新たにしました。

編集者は、1953年5月の終わりごろレイ教区長・有馬伝道士たちから「南の光明」発刊の相談を受けました。ガリ版3枚程度という話が、教区の皆様にとって読みやすく長く親しんでいただきたいとの願いから変更され、最初から活字印刷でスタートしたようです。当時の編集者は、創刊号のためできるだけ記事を盛りスタートを祝したいと考えましたが、全沖縄の信徒に告知する時間がなく、10名ほどの寄稿により完成させたと述べています。

創刊号を読んで、第二次世界大戦後最初に教区長に任命されたレイ司教様が、戦後の沖縄で宣教のため力を尽くした多くの働きに感慨を深くしました。また、伊集氏宅で行われた戦後初となるミサが捧げられた様子には、その場にいるような感動を受けました。73年前、先輩方が希望を持って創刊したことを思い、「みなみのひかり」がそれを受け継ぐとともに、教区報として新たな役割を模索しながら歩んでいくことを願っています。

# GFC: A Celebration of Unity Beyond Differences

**Mrs. Zenaida Mariano – Yomitan Catholic Parish**

Celebration of Gathering for Christ (GFC) was held last October 11, 2026 at Yomitan Catholic Parish. It is a yearly celebration for Migrants from different parishes who live in Okinawa Island.

Our theme was “One Body, One Spirit, One Hope” from Ephesians 4:4. Bishop Wayne, in his homily, called all Filipino Catholics in Okinawa to live as one family in Christ. The Bishop also reflected on the parable of the wedding banquet. He invited everyone to choose unity, forgiveness, and a way of life that shows Jesus to others. In the parable, a king prepares a wedding feast for his son. He invites many guests, but they refuse and give excuses. The king then sends his servants to invite anyone they can find, even people from the streets, so they can join the celebration. The Bishop explained that the king represents God, and the banquet represents God’s gifts. God invites all people to receive His love, peace, forgiveness, and new life. But people can also choose to ignore this invitation.

The story reminds Christians to think about how they respond to God each day. Many people neglect their faith, forget to pray, or slowly distance themselves from the Church. Some find it hard to forgive family members or people who hurt them. This stops the peace and healing that God wants to give. Bishop Berndt reminded everyone that accepting God’s invitation is more than attending Mass. It means living the Gospel–loving others, helping the poor, working for justice and peace, and following the teachings of Jesus.

From his experience in many parishes, he shared how much he admires the Filipino Catholic Community. He saw how Filipinos work together even with differences in language, regional background & place of origin. He also said that differences can sometimes cause division. Even people with the same faith and culture can have misunderstandings that weaken unity. The Bishop encouraged everyone to look beyond these differences and become one community with one heart and one spirit.

This call to unity is connected to the Gospel invitation. God welcomes people from all backgrounds. A united Christian community becomes a strong witness of Christ’s love, especially when members show respect and compassion. He defined a Christian as: “A Christian is someone in whom and through whom Jesus is alive today.” Christians show kindness, forgive others, care for the poor, and treat every person with dignity. As the gathering ended, the Bishop expressed his enjoyment of Filipino food. His simple and joyful comment added warmth to a gathering focused on a deep message: following Christ means living in love with one another.

The challenge for the Filipino Catholic community in Okinawa is to bring this message into daily life–by forgiving one another, helping those in need, overcoming divisions, and working together as one family in Christ.

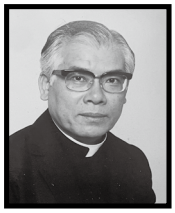






## ペトロ･バプティスタ 石神忠眞郎司教 十三回忌追悼ミサ および 有馬馬瓚神父 三回忌追悼ミサ


石神忠眞郎司教


有馬馬瓚神父

日時：2026年11月3日
午前11時
場所：カトリック安里教会

## マルセリーノ 谷大二司教 追悼ミサ


谷大二司教

日時：
2026年11月14日
午後4時
場所：
カトリック与那原教会

# 「有馬神父を偲んで」

真栄原教会　千村次生：編

有馬神父との思い出やエピソードは、語りだしたらきりがありません。前半は日本語グループの方々の個人的な思い出、後半は英語グループの方々が話し合って共同執筆しました。神父の人となりと、私達への眼差しを垣間見ることができます。

## ― 思い出とエピソード ―（日本語グループ数名が語った有馬師）

那覇教区の歴史を教えてくださり、宣教活動に尽力された方々の恩を忘れないようにと諭してくださったお姿や、厳しさの中にもいつも筋の通ったお話をされて身の引き締まる思いをしたことが思い出されます。聖地巡礼の際には、各地での丁寧な説明や聖人のお話をたっぷり聞かせていただきました。聖母月に合わせて、立派に育てられた百合の鉢植えを祭壇に飾ってくださる細やかな一面もありました。トイレ掃除の奉仕をしていた際には、高齢の私を気遣って「若い人にしてもらいなさい」と声を掛けてくださり、エントランスの掃き掃除を手伝おうとした時も「僕の仕事がなくなる」と微笑んでくださいました。朝早くから教会周辺の掃除を黙々と１人で続けられるそのお姿に気づき、毎土曜日には信徒３名が教会周辺の草刈りを行うようになるという輪も広がりました。真栄原教会の設備を充実させるために私財を投じてくださり、教会と学園の連携も大切になさいました。

学園の理事長としてお忙しい合間を縫って事務局のお茶の時間に加わられ、イタリアの石畳道をスクーターで走った時の爽快な体験話を楽しそうに話される気さくなお人柄でした。学園の職員が残業していると、ハーゲンダッツのアイスクリームを差し入れて励ましてくださいました。一信者がアメリカから引き揚げてきた際、家具も入っていない部屋を真っ先に祝福してくださった時には、その方は安心できて本当に嬉しく思ったということです。家族を大切にすることを常に説かれ、ミサの後におしゃべりに夢中になっていると「ホラホラ早く帰りなさい、家族が皆信者ではないでしょう。昼ご飯は家族揃って食べなさい」と度々温かく注意されたことが懐かしく思い出されます。ある信者の息子さんが交通事故で入院した時にご聖体と共に訪れて祈ってくださり、その後困難な手術は成功し無事回復したと語る方もいます。20 年前、ゆるしの秘跡を受けた際にいただいた「それはあなたの十字架です」という神父様の言葉に大変驚かされたものの、その言葉が常に頭から離れず、その方が多くの黙想会や勉強会に参加するきっかけとなり、今では教会活動と信仰の大きな支えとなっていると語ってくださる方もいます。ご主人の終油の秘跡から 13 回忌に至るまで長きにわたり心を寄せてもらい、56 年前の長男の洗礼から始まった深いご縁の中で、神父様からいただいた多くの温かい思い出と教えは今も心に深く刻まれていると語る信徒もいました。

## ―私たちの心を温めた微笑み―（英語グループ共同執筆）

有馬神父様が帰天されてから２年が経ちますが、その生き生きとした精神と献身的な奉仕は、今も私たちの共同体の心の中に深く根付いています。信徒たちは、小柄な体格でありながら、計り知れないほど大きな心を持っていた神父様の姿を懐かしく思い出します。何よりも、神父様を象徴していたのは、いつも絶えることのなかった温かい微笑みであり、それは人々にいつでも仕える準備ができているという揺るぎない姿勢の表れでした。神父様は神の群れ（信徒）に対して非常に細やかな心を配り、日曜日のミサに見慣れた顔がないとすぐに気づき、その方の健康を心から気遣われていました。共同体の誰一人として、神父様の視界や心から外れることはなかったのです。

その穏やかな佇まいの一方で、有馬神父様は私たちの共同体の絆を強めるために精力的に尽力された、強さとリーダーシップの柱でもありました。小教区の活動に深くコミットし、私たちの集まりや教会の祝祭の喜ばしいお祝いを熱心にサポートしてくださいました。非常に親切で親しみやすい一方で、教会の規則を深く尊重する実直な指導者でもあり、その毅然とした境界線の引き方や誠実さゆえに、時には誤解を招くこともありました。しかし小教区の財政を健全化し、円滑な組織体制を確立した熱心な取り組みをはじめとする構造改革は、教会にとって最善を尽くそうとする神父様の献身の証に他なりませんでした。有馬神父様はいつも私たちのために寄り添い、耳を傾け、仕える準備ができていました。今も神父様は深く惜しまれ、私たちの祈りの中で生き続けています。

# 2026年度三教区合同黙想会 那覇教区で開催

首里教会　ボスコ・ティン神父

【概要】

- 日時・担当：10月5日～9日（那覇教区担当）
- 参加教区：鹿児島・大分・那覇の三教区
- 参加者（計44人）：司教3人、司祭39人、助祭2人
  （多国籍：日本、ベトナム、韓国、フィリピン、インド、アメリカ）
- 講師：パウロ酒井俊弘司教（大阪高松大司教区）

PHOTO

今回の黙想会の講話のテーマは「司祭の召命・謙遜・従順」でした。司祭の召命とは「すべて人間の中から選ばれ、人々のために神に仕える職に任命されていること」であり、人間的な弱さはあっても、叙階によって新たな方法で神に聖別された司祭は、永遠の祭司キリストの生きた道具とされ、キリストと一体となって行動することで、ゆだねられた人々と神の民全体に奉仕しながら完徳に到達するよう義務づけられているのです。すべての司祭には各自の方法で、キリストと一体となって行動するとき特別な恵みが与えられます。また、司祭が独身で生きるのは、「キリストご自身がその生き方の模範を示し従うよう招いているから」にほかなりません。司祭たちはキリストの謙遜に倣っており、謙遜を深めるために絶えず徳を求め、ありのままの自分を知り、自分自身に対して誠実であり、屈辱や弱さを活かし、指摘を受け入れ、助けを求め、自分の限界を認めることを手段としています。さらに、キリストの従順に倣う必要があり、それは典礼・司教・神の民に対する従順を意味します。

典礼の従順とは、神への献身と信頼という内的な態度から生まれる典礼文や典礼注記に対する尊重の念を守り、神の偉大さの前でのへりくだりと教会の交わりへの真摯な忠実を示すこと」です。司教への従順は、聖霊への信頼と司祭職への尊重に根ざしています。そして神の民への従順は、自分の群れの必要と要求によって、あたかも「食べられる」かのように自分を提供するような確固たる心構えを基盤として実践されます。

期間中の8日午後、黙想の家で司祭たちは、教皇レオ14世の「司祭の聖化のための祈りの日」に際したメッセージを聞きました。神のみ言葉にある「あなたたちは聖なる者となりなさい。あなたたちの神、主であるわたしは聖なる者である」という言葉の通り、司祭の聖性とは「キリストの神秘に与ること」であり、主が求めておられる聖性は、聖霊によって変容されることを許す信頼に満ちた委ね方にほかならないと教えられました。

限界があり不完全で、しばしば弱く疲れ、傷つきやすい人間の心がこれほど高い召命に応えるためには、キリストの心との一致が必ず求められます。それは人生の毎日の中で展開される、秘跡的かつ聖体的な旅です。

司祭たちの人間性は切り分けられたものではなく、祈りや奉仕、人間関係、疲れや喜び、失敗、無駄に見える時間や愛さえも、神ご自身とその無限の愛が明らかにされる特別な場となります。それによって、「真っ直ぐで素朴で清らかな心をもち、行動の真っ只中にあってさえ黙想的であり、試練のときには憐れみ深く忠実であり、自らを捧げることに喜びを見出すことができるのです。」「司祭の聖性は、謙虚かつ勇気ある近さ、あらゆる人にとってあらゆるものとなること、そして多くの人が入って牧草地と安息を見出せるよう門を開き続けることに体現されています。」参加した司祭たちはこのメッセージを受け取り、あちらこちらで個人的に黙想を深め、本当に良い黙想会だったと感じました。

なお、来年2027年度の三教区合同黙想会の担当は大分教区となります。

# 2026年10月　司祭助祭拡大会議報告

## 開催日時：2026年10月5日(月) 10:25 ~12:00 於・安里教区センター

※会議に先立ち、帰天されたフランシス神父のお母様のため、追悼ミサが捧げられた。

1. 報告及び連絡事項

・司教、司祭の会議、研修、休暇等による不在予定

リカルド神父(9/4～10/12) 休暇(フィリピン)

浜﨑神父(9/29～10/4) 奄美、(10/14～17日) ハンセン病関連会議(東京)

ウェイン司教(10/14～15) 長崎教会管区会議(長崎)

(10/15～16) いのち・平和・人権委員会会議(東京)

大西神父(10/13～22) 休暇(愛媛)

デニス神父(10/15～16) いのち・平和・人権委員会会議(東京)

マキシ神父(10/17～18) 高宮教会(福岡)

マイケル神父(10/28～30) 召命担当者会議(東京)

ヨアキム神父(10/20～22) ベトナム人司牧者会議(福岡)

・WYDソウル大会に那覇教区から7名の若者が参加する予定である。野宿を想定した準備や電子マネー決済のみになる等に注意を要する

・全国典礼担当者会議についての報告(出席者: 典礼担当マイケル神父)

カトリック儀式書・教会の祈りの日本語版が再翻訳される予定

聖週間の典礼の手引書が準備される予定

※ウェイン司教から典礼委員会担当の白浜広島司教の病気引退届受理の報告あり

・有馬神父の三回忌追悼ミサについて

帰天日は10月29日、開南教会で当日の朝ミサで追悼するが、その日は平日であるため追悼ミサに参加したい信徒に配慮し、11月3日の11時から安里教会で教区の追悼ミサを行う

・12月6日(日)14:00~16:00に小禄教会において、聖フランシスコの帰天800年祭講話とウェイン司教主式のミサが捧げられる予定である

2. 審議事項

・三教区合同黙想会の日程報告及び司祭たちへ役割分担の依頼。講師の酒井司教の都合により、若干の日程修正を報告(担当: ボスコ神父)

・司教予定報告

10/11 ‥‥フィリピン共同体の集いミサ: 読谷教会

10/18 ‥‥首里教会公式訪問

10/25 ‥‥カリタス沖縄チャリティーコンサート: 安里教会

11/2‥‥‥社会司教委員会: 東京

11/7‥‥‥さいたま教区講演会: 埼玉

11/15 ‥‥ベトナム共同体の集いミサ: 安里教会

11/22 ‥‥真栄原教会公式訪問

11/28～29‥‥大宮教会黙想会

・中央協から出される教皇メッセージの邦訳等を各小教区で掲示し、信徒たちが閲覧可能になるよう配慮要請あり

・次回会議は11月3日(火)、安里教区センターで午前9時半から司祭会議、引き続き11時から有馬神父の三回忌追悼ミサ

承認: ウェイン・フランシス・バーント司教　　記録: 新田 選

教区NEWS 教会

## 「○○○○○○」　○○○○○教会　島尻　佳恵

今年の平良・保良子供会の『サマータイム』は8月29日（土）に平良教会で行われました。

ピーター神父様を先頭に、シスター方、幼稚園から高校生までの子供17名、保護者、スタッフと沢山の人達と共に賑やかに催されました。今年のテーマはアッシジの聖フランシスコ特別聖年に合わせて【みんな兄弟姉妹】としました。今年の活動メインは“ロザリオ作り”。Sr.砂川からマリア様のお話を聞いた後、色とりどりのビーズでミニロザリオを各自作りました。作業が細かく難しい面もありましたが、初めて作ったロザリオの完成に皆、達成感を感じている様子でした。心を込めて作ったロザリオは、午後から行われたミサの奉納時にパンとぶどう酒と一緒に子供たちの手で捧げられました。その他にはスイカ割りや昼食（カレーライス）等の楽しい時間を、信者、未信者問わず一緒に過ごせた事はとても良かったと思います。ミサの中でピーター神父様は、聖櫃の中にはイエス様がおられる事、ご聖体をいただく事はイエス様をいただき、イエス様の教えを守って皆と仲良く生活する事と話されました。また、同月那覇教区のサマーキャンプに参加して来た高校生Eさんが、キャンプで学んだ事や島外に友達が出来た事の喜び体験談などを話し、子供達へ来年のキャンプをお勧めしていました。ピーター神父様をはじめ、シスター、信徒の皆さんの物心両面のご協力に感謝するとともに、共同体の繋がりをさらに深めていきたいものです。

## 「琉歌ミサ曲で敬老の日を祝う」　名護教会　渡慶次純栄



９月20日（日）は、敬老の日のお祝いとして、入祭と閉祭は琉歌ミサ曲（愛楽園教会天久佐信氏作詞）の２曲をみなで声を合わせて歌いました。三線演奏は、宮城永有さん、歌の中心は奥様の美津子さんで、お2人とも93歳になられました。2023年から毎年、お2人の元気をいただきながら歌うことができるのは、名護教会にとって大きな恵みです。ミサ後は、敬老を祝う茶話会を開き、美味しいプレゼントもお渡しし、和やかに楽しく過ごしました。今年も琉歌によるミサを行うことができたことを、マイケル神父様と宮城永有、美津子ご夫妻に感謝します。ありがとうございました。

NPO法人ぶどう園の会
訪問看護ステーション クララ
TEL&FAX:098-937-5001
住所　沖縄市泡瀬2丁目37-15
・基本受付　月曜日～金曜日（申込、相談など）
・営業時間　8:30～17:30
・営 業 日　24時間365日（緊急対応含む）

那覇教区子どもと女性の権利を擁護するデスク
相談窓口
☎098-963-5859
月・水
13:00～17:00

葬祭の「やすらい企画」
私たちは故人とご遺族の意向を最優先に考えます。何でもご相談下さい。
那覇市首里鳥堀町4-57-3
TEL&FAX:098-885-8205
http://w1.nirai.ne.jp/yasurai
E-mail:yasurai@nirai.ne.jp
24時間受付

～ご遺族の心をもって奉仕する～
葬典社（そうてんしゃ）
＊創業30数余年・・・。
＊皆様に支えられ「感謝」とともに人生を閉じるためのお手伝いをさせていただいております。
＊ご質問、ご相談、24時間、いつでもお電話下さい。
「ゆうなの会」会員募集中です。
（実務担当）比嘉（ひが）　高茂（たかしげ）
24時間受付
☎098-853-1059（てんごく）